

8.1.4 止痢剤の量の調節

止痢剤の量の調節をしているという回答は、45.0%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図 33 に示した。

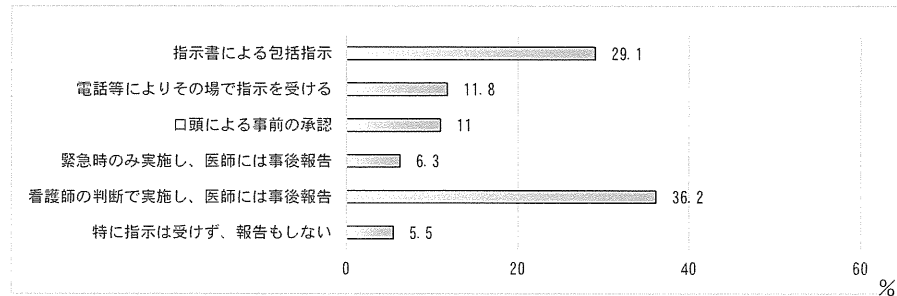


図 33 止痢剤の量の調節に関する訪問看護師の裁量

8.1.5 グリセリン浣腸

グリセリン浣腸を実施しているという回答は、83.4%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図 34 に示した。

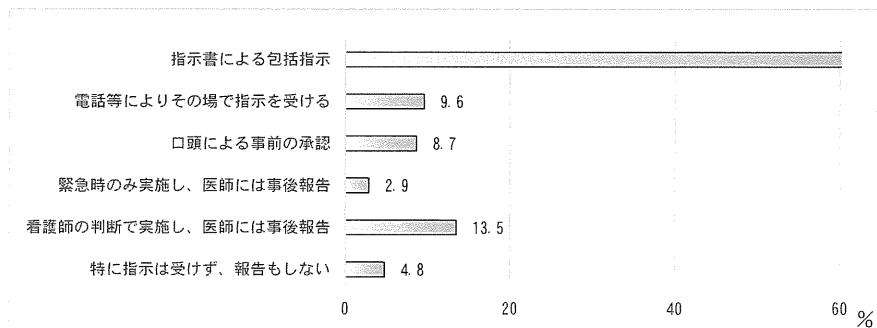


図 34 グリセリン浣腸に関する訪問看護師の裁量

8.1.6 摘便

摘便を実施しているという回答は、90.8%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図 35 に示した。

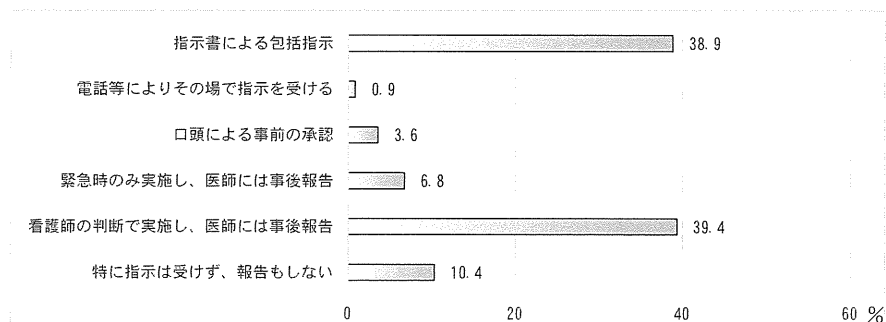


図 35 摘便に関する訪問看護師の裁量

8.1.7 尿閉時の女性の導尿

尿閉時の女性の導尿を実施しているという回答は、45.4%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図 36 に示した。

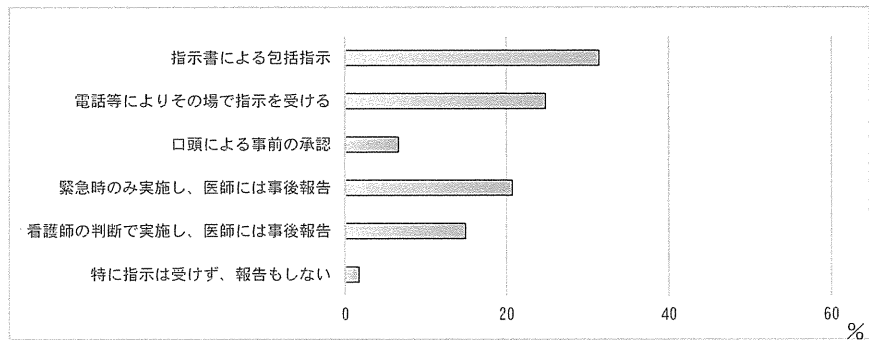


図 36 尿閉時の女性の導尿に関する訪問看護師の裁量

8.1.8 尿閉時の男性の導尿

尿閉時の男性の導尿を実施しているという回答は、28.5%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図 37 に示した。

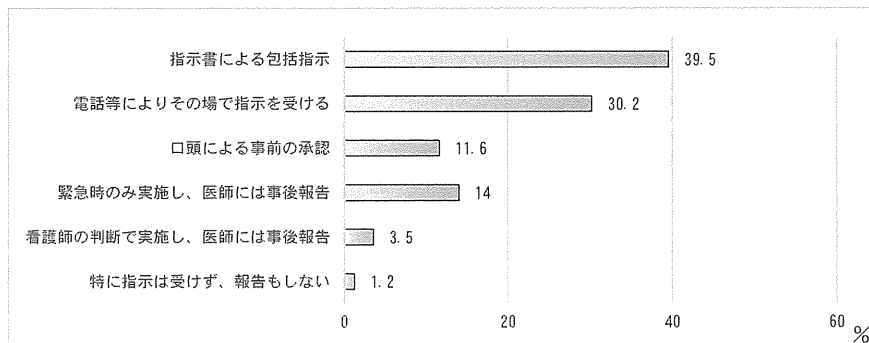


図 37 尿閉時の男性の導尿に関する訪問看護師の裁量

8.1.9 女性の留置カテーテル交換

女性の留置カテーテル交換を実施しているという回答は、71.9%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図 38 に示した。

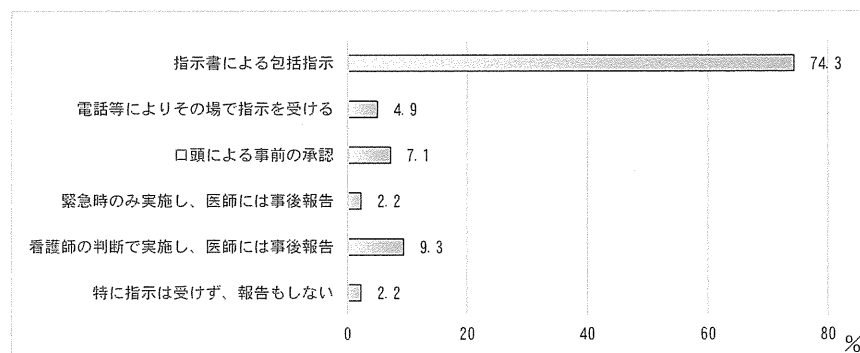


図 38 女性の留置カテーテル交換に関する訪問看護師の裁量

8.1.10 男性の留置カテーテル交換

男性の留置カテーテル交換を実施しているという回答は、32.9%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図39に示した。

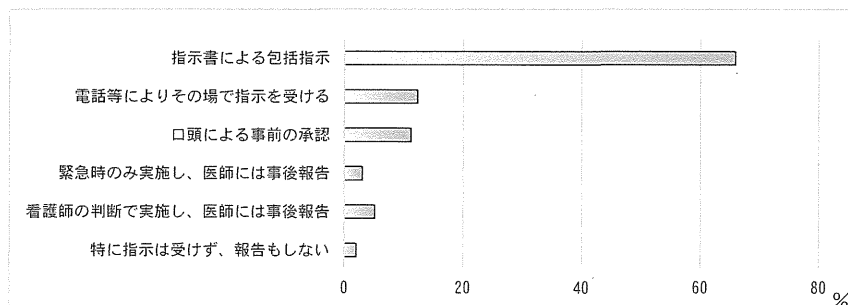


図39 男性の留置カテーテル交換に関する訪問看護師の裁量

8.1.11 膀胱洗浄

膀胱洗浄を実施しているという回答は、63.6%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図40に示した。

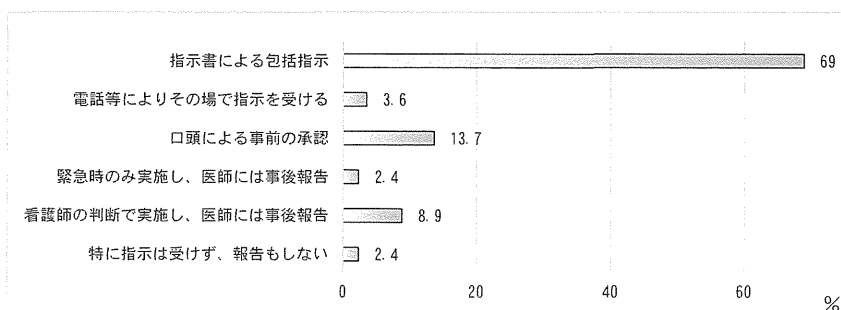


図40 膀胱洗浄に関する訪問看護師の裁量

9. 地域への関わり

9.1 訪問看護師の通勤時間

自宅から勤務先までの片道の通勤時間の平均は21.4分 (SD 19.89)、中央値は15分 (Range 2-240) であった。所要時間の分布を図41に示した。

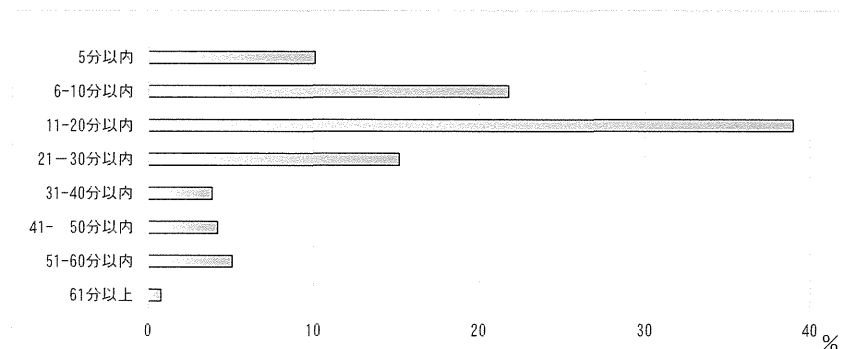


図41 自宅から勤務先までの片道の通勤時間

9.2 近隣住民の見守りや協力が必要だと判断した場合の対応

利用者が日常生活を送るうえで近隣住民の見守りや協力が必要だと判断した場合の対応に関する回答を図 42 に示した。

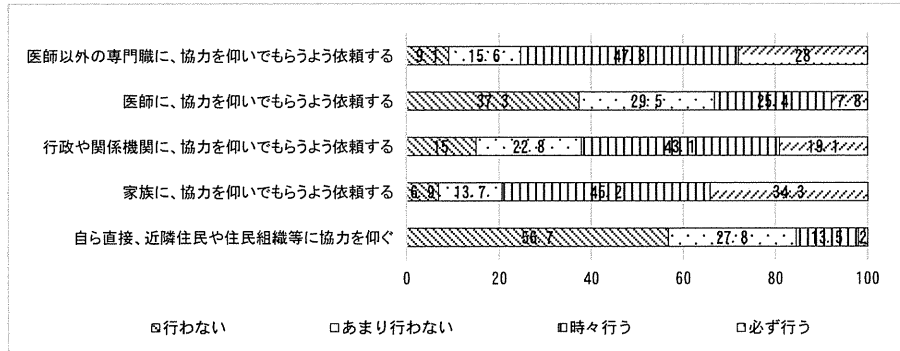


図 42 近隣住民の見守りや協力が必要だと判断した場合の対応

9.3 訪問エリアにおける社会・人間関係の豊かさ

訪問エリアにおける社会・人間関係の豊かさ（地域内の「つながり」「まとまり」、助け合いの雰囲気等）について、5段階で回答を求めた。回答の平均値は2.64 (SD 0.78)、中央値3.0 (Range 1-4) であった。十分醸成されているという回答はなかった。回答分布を図 43 に示した。

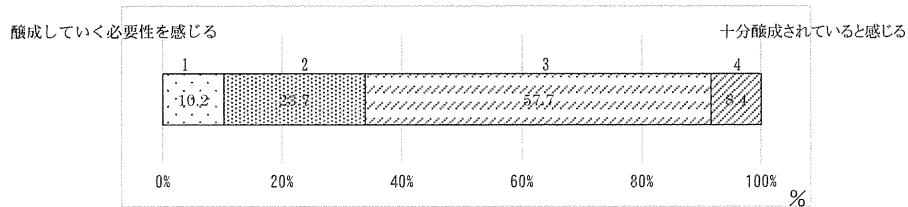


図 43 訪問エリアにおける社会・人間関係の豊かさ

10. 能力向上

10.1 指導やアドバイスの頻度

過去1年間における現職の上司、同僚や仕事仲間による仕事上の能力向上を考えた指導やアドバイスの頻度について、図 44 に示した。

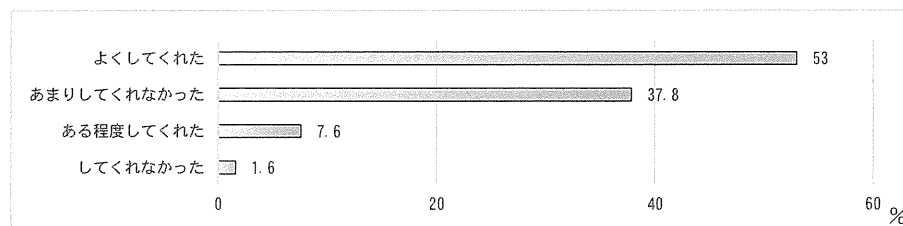


図 44 同僚や仕事仲間による指導やアドバイスの頻度

10.2 研修への参加

過去1年間における研修の参加状況は、法人・事業所内での研修に参加60.5%、勤務先が外部から講師を招いて行う研修に参加35.2%、他の事業所等の見学11.3%、外部で行われる研修や学会80.2%であった。1年間、一度も研修に参加していないという回答は8.2%であった。

11. 人間関係・ロールモデル

現在の職場・法人に、「尊敬できる法人・事業所のトップ」「目標となる同僚・先輩」「仕事上の悩みや将来の仕事について相談できる相手」がいるかを尋ね、その回答を図45に示した。

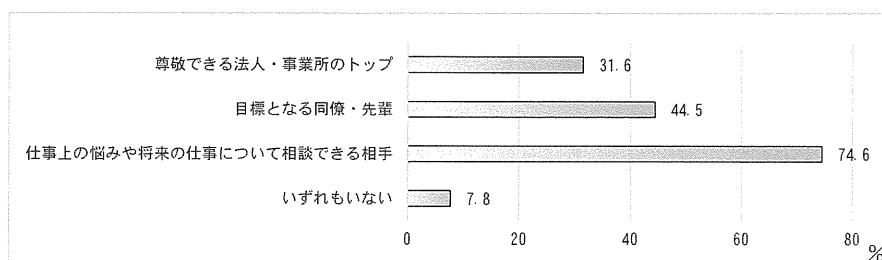


図45 職場の人間関係・ロールモデル

12. 5年間の継続勤務可能性

12.1 現在の職場・法人で、5年後に働いている可能性

現在の職場・法人で、5年後に働いている可能性を尋ね、回答分布を図46に示した。

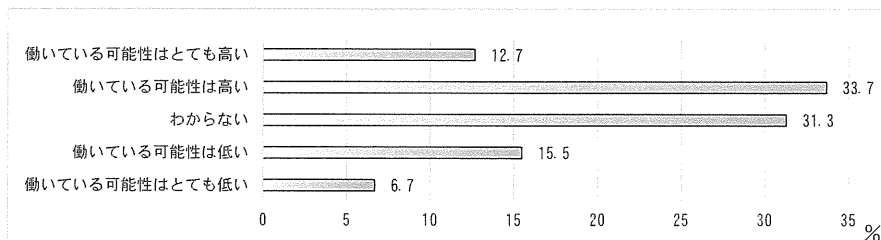


図46 現在の職場・法人で、5年後に働いている可能性

12.2 5年後に働いている場所

現在の職場・法人で、5年後に働いている可能性が低い、とても低いと回答した方に、5年後、どこで仕事をしているかを尋ね、その回答分布を図47に示した。

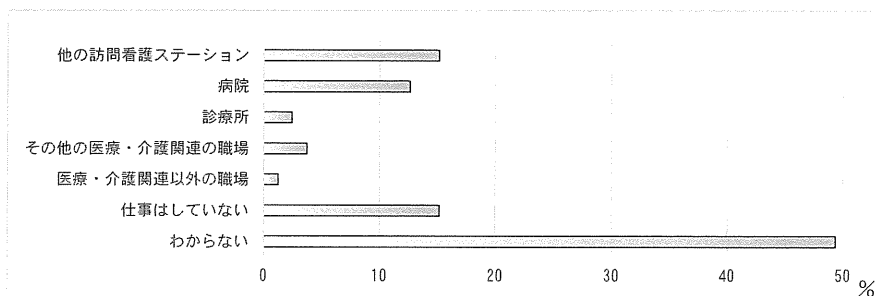


図47 5年後に働いている場所

13. 訪問看護師の臨床実践力

訪問看護師の臨床実践力の自己評価を把握するために、キャリア中期看護師の臨床実践力測定尺度を用い回答を得た。回答分布を図 48 に示した。

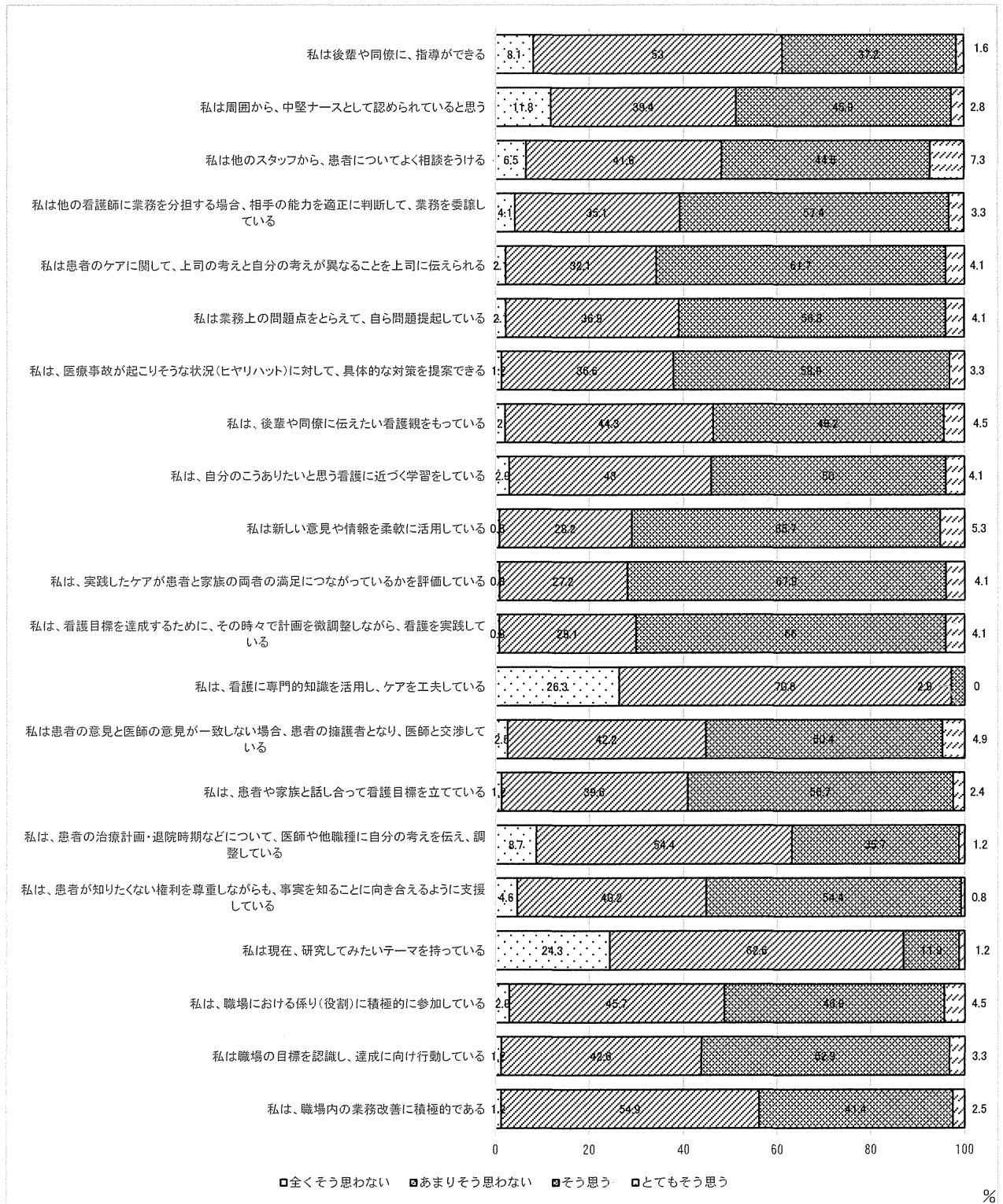


図 48 訪問看護師の臨床実践能力

14. 訪問看護師の職務満足度

開発者の了承を得て、Home Healthcare Nurses' Job Satisfaction Scale (Ellenbecker et al. 2004) の項目について、double-back translation を実施した。その後、地域看護学・在宅看護学の研究者4名で項目内容の妥当性について検討を重ね、最終版として以下の30項目について調査した。回答分布を図49に示した。

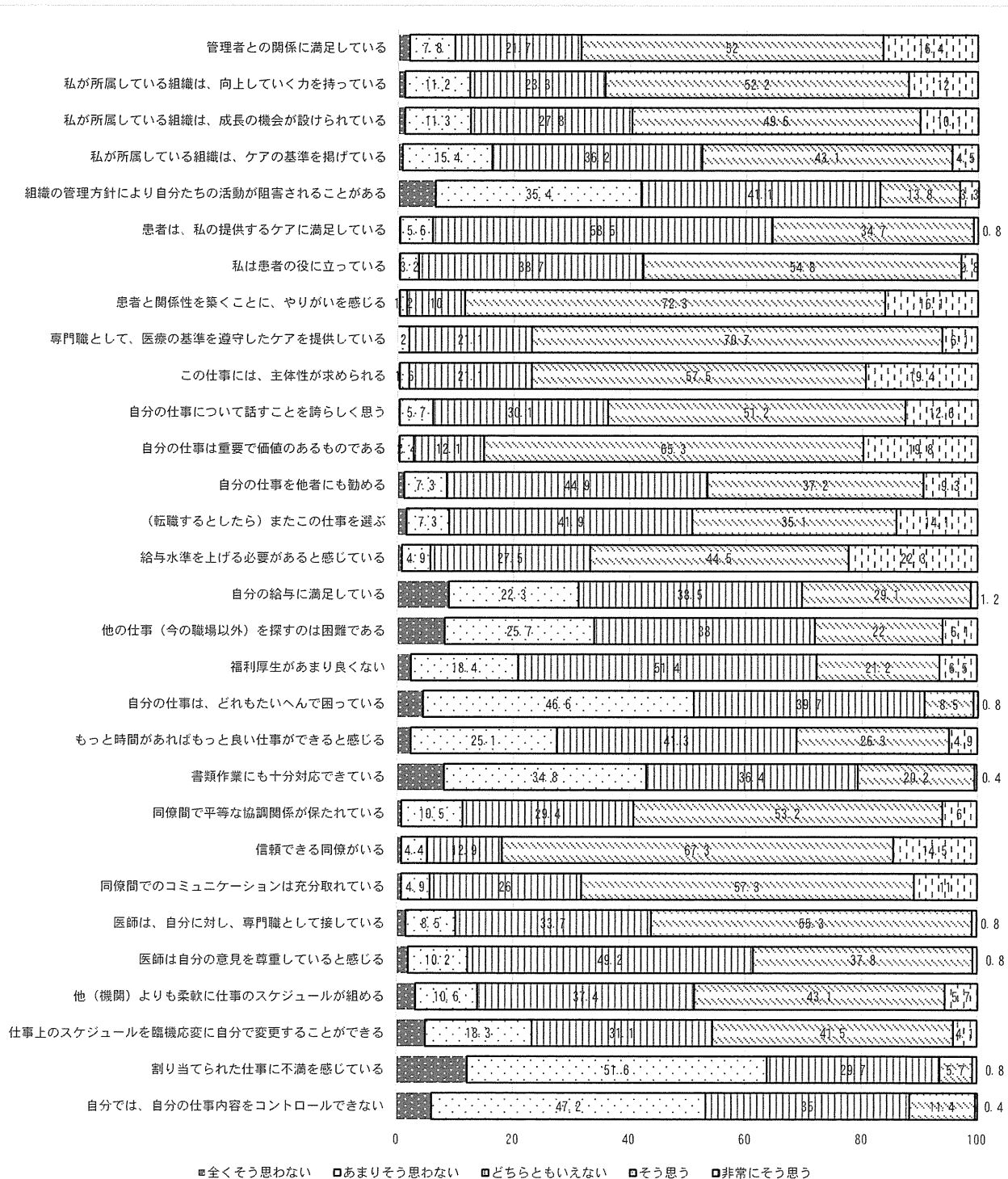


図49 訪問看護師の職務満足度

15. 日常的な近所づきあいや地域での活動状況

15.1 近所づきあいの程度

日常的な近所づきあいの程度を尋ね、回答を得た。回答分布を図 50 に示した。

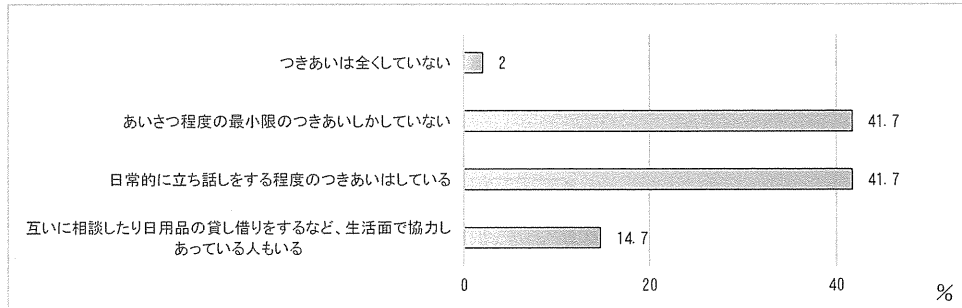


図 50 近所づきあいの程度

15.2 近所で面識・交流のある人の数

近所で面識・交流のある人の数を尋ね、回答を得た。回答分布を図 51 に示した。

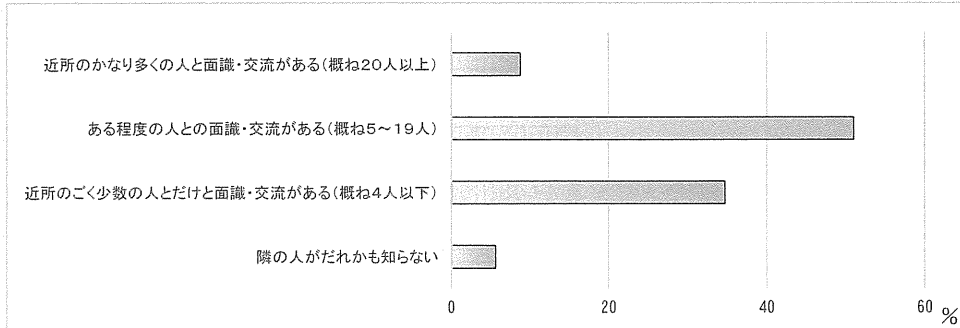


図 51 近所で面識・交流のある人の数

15.3 つきあいの頻度

普段、友人・知人、親戚・親類、職場の同僚とどの程度の頻度でつきあいをしているかを尋ね、系統を得た。回答分布を図 52 に示した。

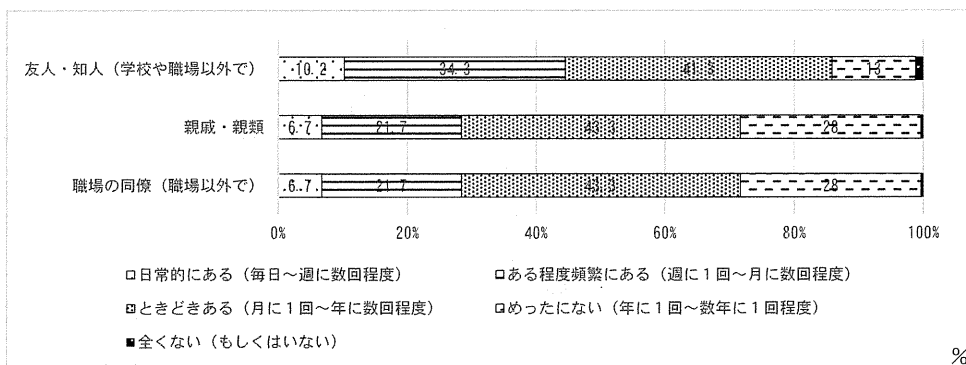


図 52 つきあいの頻度

16. 地域活動

以下の地域活動への参加頻度を尋ね、回答を得た。回答分布を図 53 に示した。

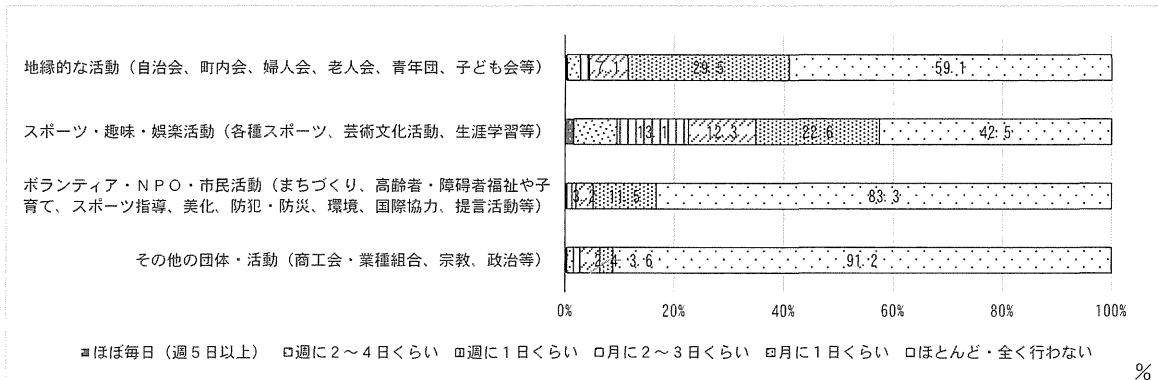


図 53 地域活動への参加頻度

17. 居住地における社会・人間関係の豊かさ

居住地における社会・人間関係の豊かさ（地域内の「つながり」「まとまり」、助け合いの雰囲気等）について、5段階で回答を求めた。回答の平均値は 2.63 (SD 0.82)、中央値 3.0 (Range 1-5) であった。回答分布を図 54 に示した。

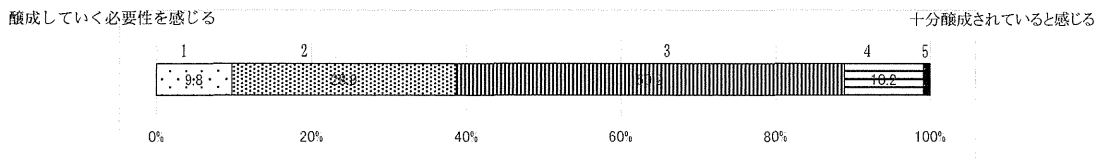


図 54 居住地における社会・人間関係の豊かさ

18. 幸福度

18.1 幸福度尺度項目

幸福度尺度 9 項目について回答を得、分布を図 55 に示した。

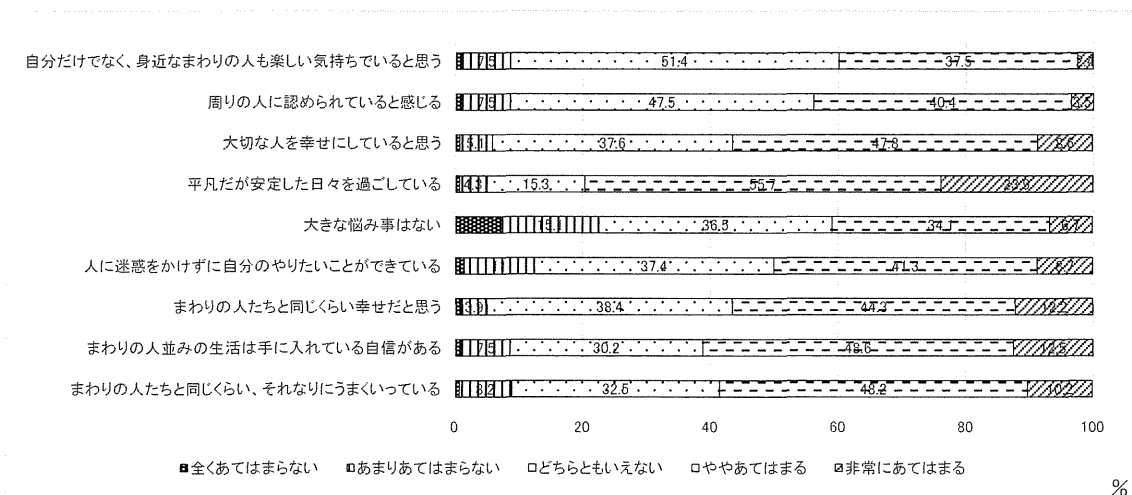


図 55 幸福度尺度

18.2 自身の生活への全般満足度

自身の生活への満足度についての回答分布を図 56 に示した。

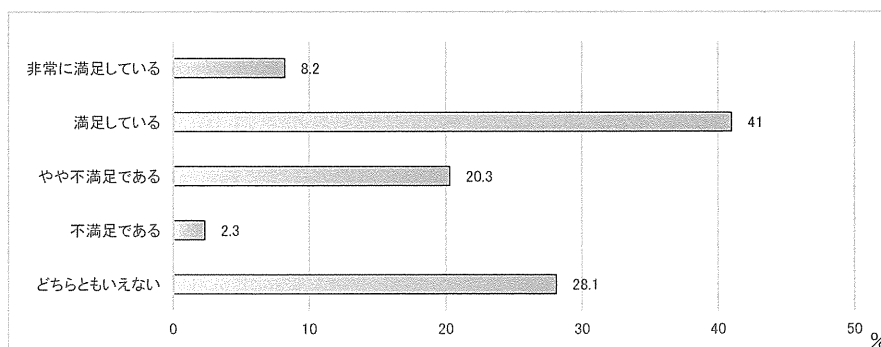


図 56 自身の生活への全般満足度

E. 結論

本邦の訪問看護師の就業意識や労働条件、働き方や日常生活について把握した。

今後、オランダの在宅ケア組織 BUURTZORG で就業する看護師らに対する調査結果と比較検討することにより、より患者中心/住民本位かつ看護職の働きがいをも高める多職種協働ケアステーションのあり方を検討するための基礎資料とする予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

資料1：依頼票

平成28年1月

各位

平成27年度 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
訪問看護師の仕事と働き方に関する調査 アンケートへのご協力をお願い

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

高齢化のさらなる進展と高齢者像の変化が見込まれ、住み慣れた地域での尊厳ある生活の継続を支える地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっています。より人間的なケア、支えあい育みあう地域づくりに向けて、看護職のさらなる活躍が期待されています。

そこで、「統合ケアを指向した新たな地域包括ケアステーションに関する研究会」では、厚生労働省の研究費を受け、地域における看護機能の発揮に焦点をおき、ケアの質と専門職の仕事の質を高めることを通じた持続可能な地域ケアのモデルを構想することを目的として、調査研究を進めています。

このたび、本調査研究の一貫として、日本の訪問看護ステーションとオランダの在宅ケア組織で地域を支える看護師の皆さまを対象に、仕事の内容や就業意識、働き方と日常生活、勤務先ステーションの実態についておうかがいするアンケート調査を実施することといたしました。より患者中心／住民本位で看護職の働きがいを高める多職種協働ケアステーションのあり方を検討するための基礎資料とするものです。

つきましては、お忙しいところたいへん恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、何卒アンケート調査にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

調査結果の分析・公表は、学術目的のみ使用することとし、ご回答内容は、すべて統計的に処理いたしますので、ご協力いただいた法人・事業所名や看護師の個別の回答内容が、外部に公表されることはありません。アンケート調査の概要は、裏面に記載しております。調査内容についてご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

末筆ながら、貴事業所のますますのご発展を心から祈念申し上げます。

敬具

<お問合せ先>

厚生労働科学研究費補助金「統合ケアを指向した新たな地域包括ケアステーションに関する研究会」

主任研究者：堀田聰子(国際医療福祉大学大学院)

分担研究者：西村周三(医療経済研究機構)、山岸暁美(浜松医科大学医学部地域看護学講座)、吉江悟(東京大学医学部附属病院)、野口麻衣子(東京大学大学院医学系研究科)、成瀬昂(東京大学大学院医学系研究科)

<アンケート調査の概要と調査の配布・回収に関するお願い>

1. 調査の構成と対象者

本調査は、【訪問看護ステーション票】と【訪問看護師票】からなります。

- 【訪問看護ステーション票】は、管理者をご記入ください。
- 【訪問看護師票】は、訪問看護師としての経験が3年以上あるスタッフ看護師個人を対象とします。恐れ入りますが、常勤看護師2人、非常勤看護師1人にお渡しください。

2. 調査内容

主に、次の点に関して調査を行います。

- 【訪問看護ステーション票】は、調査にご回答くださった訪問看護師の方々の所属先事業所の概要を把握するもので、事業所概要、サービス提供・利用者の状況、職員の状況等からなっています。
- 【訪問看護師票】は、職業経歴や保有資格、勤務先での働き方、直近で訪問した利用者とその実施内容、日常のケアの実践、今の勤務先での能力開発と今後の希望、看護の仕事や職場に対する考え、日常生活、個人属性、家族状況、生活満足度等をお尋ねしています。
- 調査項目の詳細は、別添の調査票をご参照ください。

3. 調査票の配布先

貴事業所を含めて、訪問看護事業所 200 程度、各 3 部の調査票配布を予定しています。

なお、共通質問項目を含め、オランダの在宅ケア組織 BUURTZORG の看護師等にも調査を実施します。

4. 調査スケジュール

調査票配布：2016年1月 → 調査票回収締切：2016年1月末

※スタッフ看護師のお手元に調査票が届いてから10日以内にご回答いただくようお願い致します。

アンケート調査の概要と調査の配布・回収に関するお願い

1. 調査の実施にあたってのお願い

- (1) 【訪問看護ステーション票】へのご記入をお願いいたします。
- (2) 【訪問看護師票】をスタッフ看護師に配布願います。上記1.の要件を満たす方に調査票及び専用封筒をお渡しください。
- (3) スタッフ看護師にご回答いただいた調査票は、専用封筒に入れて管理者にお戻し頂くことにしております。
お手数をおかけしますが、ご自身をご記入くださった【訪問看護ステーション票】と、スタッフ看護師がご回答くださった【訪問看護師票】を、まとめて返送していただきますようお願いいたします。

以 上

平成 27 年度 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
訪問看護師の仕事と働き方に関する調査【訪問看護ステーション票】

※本調査票は、事業所の管理者の方がご記入ください。

※ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。数字等での回答は、直接口にご記入ください。
該当がない場合には必ず「0」をご記入ください。

※調査時点は、平成 27 年 10 月 1 日または質問に記載している期間とします。

貴事業所の概要について			
1) 事業開始年	平成 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月		
2) 開設主体	1. 都道府県・市区町村・地方独立行政法人・広域連合・一部事務組合 2. 日本赤十字社・社会保険関係団体 3. 医療法人 4. 医師会 5. 看護協会 6. 社団・財団法人（医師会と看護協会は含まない） 7. 社会福祉法人（社会福祉協議会含む） 8. 農業協同組合及び連合会 9. 消費生活協同組合及び連合会 10. 営利法人（株式・合名・合資・有限会社） 11. 特定非営利活動法人（NPO） 12. その他（具体的に <input type="text"/> ）		
3) 加算等の届出 （○はいくつでも）	a) 介護保険	1. 緊急時訪問看護加算 2. 特別管理体制 3. ターミナルケア体制 4. サービス提供体制強化加算 5. いずれもなし	
	b) 健康保険等	1. 重症者管理加算あり 2. 重症者管理加算なし	
4) 医療機関併設	1. 無床診療所 2. 有床診療所 3. 病院 4. なし		
5) 貴事業所での定期巡回・随時対応型訪問介護看護の実施	1. 実施 2. 予定 3. 予定なし・不明		
6) 貴事業所での看護小規模多機能型居宅介護の実施	1. 実施 2. 予定 3. 予定なし・不明		
7) 所在地	1. 政令指定都市・東京 23 区 2. それ以外の市・区 3. 町・村、その他		
8) 介護報酬算定上の地域区分	1. 1 級地 2. 2 級地 3. 3 級地 4. 4 級地 5. 5 級地 6. 6 級地 7. 7 級地 8. その他		
9) 訪問の範囲	事業所から半径約 <input type="text"/> km 範囲		
10) 経営状況	1. 黒字 2. 均衡 3. 赤字 4. 不明 5. その他（ <input type="text"/> ）		
サービス提供・利用者の状況について			
11) 平成 27 年 10 月のサービス提供状況 （○はいくつでも）	a) 介護保険	a-1) 介護予防訪問看護	利用実人員数 <input type="text"/> 人 訪問回数の合計 <input type="text"/> 回
		a-2) 訪問看護（介護給付）	利用実人員数 <input type="text"/> 人 訪問回数の合計 <input type="text"/> 回
	b) 健康保険等	※介護保険法による（介護予防）訪問看護を 1 回も利用せず健康保険法等のみによる訪問看護を利用した者について計上してください。 利用実人員数 <input type="text"/> 人 訪問回数の合計 <input type="text"/> 回	
	c) その他	利用実人員数 <input type="text"/> 人 訪問回数の合計 <input type="text"/> 回	
12) 連携先	a) 指示書を受けている医療機関数	<input type="text"/> ケ所	
	b) 連携している居宅介護支援事業所	<input type="text"/> ケ所	

13) 利用者の状態像

平成 27 年 10 月 1 日の全利用者 人を、訪問看護の必要性で分類した人数をご記入ください。

※ 1 日あたり訪問回数・夜間早朝訪問、1 月あたり訪問日数は、他サービスが現状のまま利用されていた場合に、計画訪問についてご判断ください。緊急訪問の発生リスクは、前述の訪問ニーズが満たされてもなお、緊急訪問が生じる可能性についてご判断ください。

1 日あたり訪問回数 & 夜間早朝ニーズ	1 月あたり 訪問日数	緊急訪問の 発生リスク	該当する人数
訪問するなら 1 日 1 回、 かつ夜間早朝の計画訪問 は不要	2-4 日/月	低い	<input type="text"/> 人
	5-8 日/月	低い	<input type="text"/> 人
	9 日以上/月	低い	<input type="text"/> 人
	必要日数は月に 2 日以上、 かつ緊急訪問可能性が高い		<input type="text"/> 人
1 日 2 回以上訪問必要、かつ/または夜間早朝訪問が必要			<input type="text"/> 人

14) 過去半年の利用の終了

a) 過去半年間に利用が終了した人数 人

b) うち在宅で死亡 人 c) うち入院・入所 人

d) うち在宅で軽快 人 e) その他 人

職員の状況について

15) 全職員数

平成 27 年 10 月 1 日時点	常勤実人数	非常勤実人数	常勤換算数 (常勤+非常勤)
保健師・助産師・看護師・准看護師	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人
PT・OT・ST	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人
看護補助者	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人
事務職員	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人
その他	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人

16) 看護職員の採用・離職

平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日までの看護職員の採用・離職数は

a) 看護職員の採用 常勤 人 非常勤 人

b) 看護職員の離職 常勤 人 非常勤 人

17) 所定労働時間

貴事業所における常勤職員の所定労働時間は 週 時間

事業所票は以上です。スタッフが記入なされた訪問看護師票とともにご返送ください。ありがとうございます！

資料3：訪問看護師票

平成27年度 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

訪問看護師の仕事と働き方に関する調査【訪問看護師票】

平成28年1月

「統合ケアを指向した新たな地域包括ケアステーションに関する研究会」では、厚生労働省の研究費を受け、ケアの質と専門職の仕事の質を高めることを通じた持続可能な地域ケアのモデル構想を目的として、調査研究を進めています。

このアンケートは、日本とオランダで地域を支える看護師の皆さまを対象に、仕事の内容や就業意識、働き方と日常生活についておうかがいし、より患者中心／住民本位で看護職の働きがいを高める多職種協働ケアステーションのあり方を検討するための基礎資料とするものです。

お忙しいところたいへん恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、調査は無記名式で、いただいた回答結果はすべて統計的に処理いたしますので、個々人の回答が特定されることはございません。どうぞありのままをご記入ください。

厚生労働科学研究費補助金「統合ケアを指向した新たな地域包括ケアステーションに関する研究会」
主任研究者：堀田聰子（国際医療福祉大学大学院教授）、分担研究者：西村周三（医療経済研究機構所長）、
山岸暁美（浜松医科大学医学部地域看護学講座准教授）、吉江悟（東京大学医学部附属病院特任研究員）、
野口麻衣子（東京大学大学院医学系研究科助教）、成瀬昂（東京大学大学院医学系研究科助教）

ご記入にあたってのお願い

○ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。数字等での回答は、直接口にご記入ください。該当がない場合には必ず「0（ゼロ）」をご記入ください。

○特にことわりのない場合、平成27年10月1日現在の状況をお答えください。

○ご記入が終わりましたら、調査票と一緒に渡された専用封筒に封入後、事業所の管理者にお渡しください。なお、調査票をお受け取りになってから10日以内にお渡しいただければ幸いです。

本調査についてのお問い合わせ

国立大学法人浜松医科大学医学部 地域看護学講座 山岸 暁美

TEL/FAX:053-435-2824 E-mail: magish@hama-med.ac.jp

これまでのお仕事のご経験や資格等について

問1 これまでのお仕事の経験年数

a) 今の勤務先で	通算	<input type="text"/>	年目
b) 訪問看護師として	通算	<input type="text"/>	年目
c) 看護職として	通算	<input type="text"/>	年目

問2 今の勤務先以外でのお仕事のご経験（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 他の訪問看護ステーション | 5. その他の医療・介護関連の職場 |
| 2. 病院 | 6. 医療・介護関連以外の職場 |
| 3. 診療所 | 7. なし（今の勤務先が初職） |
| 4. 入所施設 | |

問3 保有資格（○はいくつでも）

- | | | |
|---------|--------|---|
| 1. 准看護師 | 3. 保健師 | 5. 認定看護師・専門看護師 |
| 2. 看護師 | 4. 助産師 | 6. 介護支援専門員(ケアマネジャー) →実務経験 (1. あり 2. なし) |

調査票を渡された事業所での働き方について

問4 ご自宅から事業所までの片道の通勤時間はどれくらいですか。片道 分 (約 km)

問5 職位 (○は1つ) 1. 管理者 2. 主任・リーダー等職場のまとめ役 3. それ以外

問6 就業形態 (○は1つ) 1. 正規職員 (雇用期間の定めなし) 2. 非正規職員 (それ以外)

問7 勤務形態 (○は1つ) 1. 常勤 (所定労働時間が主たる正規職員と同じ) 2. 非常勤 (それ以外)

問8 ふだん1週間の労働時間と訪問回数 (なしの場合はゼロをご記入ください)

	月	火	水	木	金	土	日
a) 労働時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間
b) 訪問回数	回	回	回	回	回	回	回
c) うち緊急訪問	回	回	回	回	回	回	回

問9 ふだん1週間に、次の仕事にどの程度の時間を使っていますか。賃金の支払いの有無に関係なく、仕事を行っている時間を枠内に記入してください (休憩時間は除く)。

- | | | | |
|----------------|---------------------------|------------------------|---------------------------|
| a) 利用者宅滞在時間 | 週 <input type="text"/> 時間 | d) 事業所内での情報共有カンファレンス等 | 週 <input type="text"/> 時間 |
| b) 移動時間 | 週 <input type="text"/> 時間 | e) 事業所外を含む連絡・相談・調整・会議等 | 週 <input type="text"/> 時間 |
| c) 記録・報酬請求等の事務 | 週 <input type="text"/> 時間 | f) その他 | 週 <input type="text"/> 時間 |

問10 ふだん1ヵ月間 (31日の場合) の労働日・労働時間

- a) 労働日 日/月 b) 残業を含めた労働時間 時間/月

問11 いまの労働時間について、どのように考えていますか (○は1つ)。

- | | | |
|-------------|------------|----------|
| 1. もっと長くしたい | 2. 今のままでよい | 3. 短くしたい |
|-------------|------------|----------|

問12 ふだん1ヵ月間 (31日の場合) の税込み月収 (賞与等は除き、残業・諸手当等を含む)

税込で 約 () 円

問13 昨年1年間 (2015年1月1日～12月31日) の収入はどれくらいですか。

(賞与及び残業・諸手当等を含む) (○は1つ)

- | | | |
|------------------|----------------|-----------------|
| 1. 昨年は全く働いていなかった | 5. 130-200万円未満 | 9. 500-600万円未満 |
| 2. 昨年の途中から働き始めた | 6. 200-300万円未満 | 10. 600-700万円未満 |
| 3. 103万円未満 | 7. 300-400万円未満 | 11. 700-800万円未満 |
| 4. 103～130万円未満 | 8. 400-500万円未満 | 12. 800万円以上 |

問14 今の勤務先に、ア)～イ) の制度がありますか。制度がある場合、あなたはその制度が利用しやすいと思いますか (○はそれぞれ1つ)。

	制度がある			制度がない	わからない
	利用しやすい	どちらとも いえない	利用しにくい		
ア) 育児もしくは介護のための休業制度	5	4	3	2	1
イ) 育児もしくは介護のための短時間・短日数勤務制度 (夜勤の免除を含む)	5	4	3	2	1
ウ) 育児・介護以外を目的とする休業制度(ボランティア 目的の長期休暇、学業・教育訓練目的の長期休暇など)	5	4	3	2	1
エ) 育児・介護以外を目的とする短時間・短日数勤務制度	5	4	3	2	1

問 15 あなたがもし育児や介護をする立場になった場合、現在の勤務先で仕事を続けることができますか (○は1つ)。

1. 続けられると思う/現在も両立している 2. 続けられないと思う 3. わからない

直近で訪問した利用者とそこでの実施内容について

問 16 a) 性別、年齢、主疾患、終末期か否かと訪問頻度をご回答ください。

	性	年齢	主な疾患名 (○は1つ)	終末期か否か (○は1つ)	訪問頻度
利用者 1	1. 男 2. 女		1. 脳血管疾患 2. 呼吸器疾患 3. 神経難病 4. がん 5. 心疾患 6. 認知症 7. その他	1. 終末期である 2. 終末期ではない	月 回
利用者 2	1. 男 2. 女		1. 脳血管疾患 2. 呼吸器疾患 3. 神経難病 4. がん 5. 心疾患 6. 認知症 7. その他	1. 終末期である 2. 終末期ではない	月 回
利用者 3	1. 男 2. 女		1. 脳血管疾患 2. 呼吸器疾患 3. 神経難病 4. がん 5. 心疾患 6. 認知症 7. その他	1. 終末期である 2. 終末期ではない	月 回
利用者 4	1. 男 2. 女		1. 脳血管疾患 2. 呼吸器疾患 3. 神経難病 4. がん 5. 心疾患 6. 認知症 7. その他	1. 終末期である 2. 終末期ではない	月 回

b) 上記 4 名の利用者宅での実施内容について教えてください。

利用者ごとに、実施した行為番号すべてに○をつけてください。また、A. 処置等、B. ケア・リハビリ、C. 療養上の世話、D. その他のカテゴリーにおける所要時間を○分とご記載ください。

観察項目	A 処置等														B ケア・リハビリ				C 療養上の世話										D その他				
	与薬			処置																													
	① 服薬介助（点眼薬、軟膏、座薬等を含む）	② 吸入	③ 点滴・中心静脈栄養・注射	④ バイタル測定（血糖測定、酸素飽和度等の測定を含む）	⑤ 褥瘡等創傷部の処置	⑥ 採血など検体採取	⑦ 吸引	⑧ 人工呼吸器の管理・気管カニューレの管理	⑨ 在宅酸素療法、酸素吸入	⑩ 経管栄養	⑪ 浣腸、摘便	⑫ 人工肛門、人工膀胱、胃瘻の管理	⑬ 膀胱留置カテーテルの管理、導尿の指導、介助	⑭ 死後の処置	⑮ 緩和ケア	⑯ ADLリハビリテーション	⑰ 嚥下訓練	⑱ 排痰ケア・呼吸ケア	⑲ マッサージ	⑳ 保清（入浴介助・清拭・洗髪・足浴等）	㉑ 口腔ケア、歯磨き、歯磨き準備、歯磨き介助、うがい等	㉒ 整容（髭剃り、散髪、整髪、爪切り、更衣）	㉓ 排泄援助、おむつ交換	㉔ 経口での栄養、食事、水分摂取に関わる援助	㉕ 移動、移乗の介助・体位変換、起居の援助	㉖ 環境整備・寝具交換	㉗（身の回りの世話関連）その他	㉘ コミュニケーション、声掛け、タッチ	㉙ 本人・家族への療養指導・説明	㉚ 近隣住民への声掛け	㉛ 物品の定期的、臨時の整理、調達、手配	㉜ 介護支援専門員の業務（ケアマネジメント）	㉝ その他
利用者1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	【与薬】			【処置】											【ケア・リハビリ】				【療養上の世話】										【その他】				
所要時間		分			分											分				分										分			
利用者2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	【与薬】			【処置】											【ケア・リハビリ】				【療養上の世話】										【その他】				
所要時間		分			分											分				分										分			
利用者3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	【与薬】			【処置】											【ケア・リハビリ】				【療養上の世話】										【その他】				
所要時間		分			分											分				分										分			
利用者4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	【与薬】			【処置】											【ケア・リハビリ】				【療養上の世話】										【その他】				
所要時間		分			分											分				分										分			

日常の看護ケアの実施について

問 17 排泄のケアの実施・観察及び判断について、
 a) ア)～サ)の行為ごとに実施の有無をお答えください。
 (○は1つ)
 b) 実施している場合、当該行為の医師の指示について、
 1～6のなかからあてはまる項目1つに○をつけて
 ください。

	a) 実施の有無	b) 実施している場合 医師の指示について					
		指示書による包括指示	電話等によりその場で指示を受ける	口頭による事前の承認	緊急時には事後報告し、	看護師には事後報告	報告もしない
ア) 利用者が所有する下剤の選択	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
イ) 下剤の量の調節	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
ウ) 利用者が所有する止痢剤の選択	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
エ) 止痢剤の量の調節	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
オ) グリセリン浣腸の実施	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
カ) 摘便の実施	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
キ) 尿閉時の女性の導尿	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
ク) 尿閉時の男性の導尿	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
ケ) 女性の留置カテーテル交換	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
コ) 男性の留置カテーテル交換	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6
サ) 膀胱洗浄	1. あり 2. なし	1	2	3	4	5	6

問 18 利用者が日常生活を送るうえで近隣住民の見守りや協力が必要だと判断した場合、あなたはどうに対応しますか。以下のア)～カ)のそれぞれについて、あてはまる数字1つを選んで○をつけてください。

	行わない	あまり行わない	時々行う	必ず行う
ア) 自ら直接、近隣住民や住民組織等に協力を仰ぐ	1	2	3	4
イ) 家族に、協力を仰いでもらうよう依頼する	1	2	3	4
ウ) 行政や関係機関に、協力を仰いでもらうよう依頼する	1	2	3	4
エ) 医師に、協力を仰いでもらうよう依頼する	1	2	3	4
カ) 医師以外の専門職に、協力を仰いでもらうよう依頼する	1	2	3	4

今の勤務先での能力開発と今後の希望について

問 19 過去1年間に、あなたの仕事上の能力向上を考えて、現職の上司、同僚や仕事仲間ほどの程度、指導やアドバイスをしてくれましたか (○は1つ)。

1. よくしてくれた	3. あまりしてくれなかった
2. ある程度してくれた	4. してくれなかった

問 20 過去1年間に、研修などに参加したことがありますか (○はいくつでも)。

1. 法人・事業所内での研修	4. 外部で行われる研修や学会
2. 勤務先が外部から講師を招いて行う研修	5. その他 ()
3. 他の事業所等の見学	6. 参加したことはない

問 21 今の法人に、あなたにとって次のような人がいますか (○はいくつでも)。

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. 尊敬できる法人・事業所のトップ | 3. 仕事上の悩みや将来の仕事について相談できる相手 |
| 2. 目標となる同僚・先輩 | 4. いずれもない |

問 22 今の法人で、今後5年間働いている可能性はどれくらいありますか (○は1つ)。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 働いている可能性はとても低い →問 23 へ | 4. 働いている可能性は高い →問 24 へ |
| 2. 働いている可能性は低い →問 23 へ | 5. 働いている可能性はとても高い →問 24 へ |
| 3. わからない →問 24 へ | |

問 23 (問 22 で 1. もしくは 2. に○をつけた方)

あなたは、5年後、どこで仕事をしていると思いますか (○は1つ)。

- | | | |
|-----------------|-------------------|----------|
| 1. 他の訪問看護ステーション | 4. その他の医療・介護関連の職場 | 7. わからない |
| 2. 病院 | 5. 医療・介護関連以外の職場 | |
| 3. 診療所 | 6. 仕事はしていない | |

看護の仕事や職場に対する考えについて

問 24 以下のア) ~ト) のそれぞれについて、あてはまる数字1つを選んで○をつけてください。

	全く そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思う	とても そう 思う
ア) 私は後輩や同僚に、指導ができる	1	2	3	4
イ) 私は周囲から、中堅ナースとして認められていると思う	1	2	3	4
ウ) 私は他のスタッフから、患者についてよく相談をうける	1	2	3	4
エ) 私は他の看護師に業務を分担する場合、相手の能力を適正に判断して、業務を委譲している	1	2	3	4
オ) 私は患者のケアに関して、上司の考えと自分の考えが異なることを上司に伝えられる	1	2	3	4
カ) 私は業務上の問題点をとらえて、自ら問題提起している	1	2	3	4
キ) 私は、医療事故が起こりそうな状況(ヒヤリハット)に対して、具体的な対策を提案できる	1	2	3	4
ク) 私は、後輩や同僚に伝えたい看護観をもっている	1	2	3	4
ケ) 私は、自分のこうありたいと思う看護に近づく学習をしている	1	2	3	4
コ) 私は新しい意見や情報を柔軟に活用している	1	2	3	4
サ) 私は、実践したケアが患者と家族の両者の満足につながっているかを評価している	1	2	3	4
シ) 私は、看護目標を達成するために、その時々で計画を微調整しながら、看護を実践している	1	2	3	4
ス) 私は、看護に専門的知識を活用し、ケアを工夫している	1	2	3	4
セ) 私は患者の意見と医師の意見が一致しない場合、患者の擁護者となり、医師と交渉している	1	2	3	4
リ) 私は、患者や家族と話し合っ看護目標を立てている	1	2	3	4
ル) 私は、患者の治療計画・退院時期などについて、医師や他職種に自分の考えを伝え、調整している	1	2	3	4
レ) 私は、患者が知りたくない権利を尊重しながらも、事実を知ることに向き合えるように支援している	1	2	3	4
ロ) 私は現在、研究してみたいテーマを持っている	1	2	3	4
レ) 私は、職場における係り(役割)に積極的に参加している	1	2	3	4
ト) 私は職場の目標を認識し、達成に向け行動している	1	2	3	4